

4 国際交流

[概要]

本館では、研究活動の国際性を拡充するべく、国際研究集会の開催や外国人研究員等の受入、本館研究者の海外派遣等を行っている。2022年度の具体的な取り組みは以下のとおりである。

1. 国際戦略の制定

本館は博物館機能を有する大学共同利用機関としてのミッションを達成し、現代的視点と世界史的視野のもとに、日本の歴史と文化に関する研究を推進する国際拠点としての役割を果たすため、以下の国際戦略を制定している。この国際戦略に対応するかたちで、海外研究機関との学术交流協定等の締結、国際交流事業等の充実、外国人研究員等の受入、国際シンポジウムの開催等に取り組んだ。

(組織的な連携)

- ・海外の機関との組織的な連携を強化する。当面は、東アジア、ヨーロッパ及び北米を重点地域とする。
- ・日本歴史研究の国際的なネットワークを構築する。

(共同研究, 成果発信)

- ・国際的な共同研究を推進し、成果の国際発信を強化する。
- ・展示、フォーラム、博物館資料の活用等を通じて国際共同研究の可視化、高度化を図る。

(若手研究者育成)

- ・協定機関との派遣・招へい等を通じて若手研究者の育成を図る。

2. 学术交流協定等の締結

ケンブリッジ大学アジア・中東学部日本学科(英国)、国立民俗博物館(韓国)の2機関と新規に学术交流協定を締結した。

3. 学术交流協定等に基づく国際交流事業等の充実

国立台湾歴史博物館(台湾)との「日本と台湾からみた地域歴史像の解明」等6件の国際交流事業を推進したほか、国際交流においても博物館型研究統合を推進した。前年度より引き続き、ダラム大学東洋美術館(英国)において、国際連携展示「Monogatari: the art of storytelling in Japanese woodblock prints」(2022年1月28日～2022年5月15日)を、またジュネーヴ市立アリアナ美術館(スイス)において、国際連携展示「SURIMONO」(2022年3月18日～2022年8月21日)をこれまでの研究の成果をもとに開催した。加えて本館において、国立中央博物館(韓国)との国際連携展示「加耶—古代東アジアを生きた、ある王国の歴史—」(2022年10月4日～2022年12月11日)を、またルーヴェン・カトリック大学大学附属図書館(ベルギー)において、国際連携展示「Japan's Book Donation to the University of Louvain」(2022年10月28日～2023年1月15日)をも開催した。

4. 外国人研究員等の受入、本館研究者の海外派遣

本館の受入制度に基づき、外国人招へい研究者を3名受け入れたほか、人間文化研究機構の若手研究者海外派遣プログラムを活用して、本館研究者1名をバンドン工科大学(インドネシア)へ派遣した。

国際交流担当 齋藤 努

[国際交流事業一覧]

	相手機関名	事業名	事業主体者
継続	台湾 国立台湾歴史博物館	日本と台湾からみた地域歴史像の解明	研究部 樋浦 郷子
	韓国 国立文化財研究院	国立文化財研究院との研究者交流事業	国際企画室長 山田 慎也
	英国 グラスゴー博物館機構	スコットランドにおける日本歴史展示構築のための調査研究	研究部 日高 薫
	韓国 国立慶北大学校人文学 術院	東アジア記録文化の源流と知的ネットワーク研究	研究部 三上 喜孝
	韓国 国立釜山大学校博物館	国立歴史民俗博物館と釜山大学校博物館における研究者交流と展示協力	研究部 藤尾慎一郎
新規	韓国 国立中央博物館	先史～中世における日韓葬送儀礼の比較研究Ⅲ	研究部 高田 貫太

(1) 日本と台湾からみた地域歴史像の解明

2018～2022年度

(事業主体者 樋浦 郷子)

1. 目的

本館と国立台湾歴史博物館は、これまで災害史およびスポーツ史を中心として、「資料に依拠する」という基本的な研究方法にそって、共同研究を行ってきた。今期は第二期にあたる。引き続き災害史を継続課題とするとともに、資料研究の「歴博所蔵『高山族民俗資料』」、文献資料研究とフィールド研究をあわせもつ「近代の教育と植民地時代」、フィールド研究を通じた「日本と台湾の漁撈文化」、「民俗研究映像の制作・保存・共有」の4つのテーマについて共同研究を推進する。

また、これまで共同研究を展開する上で、組織と研究者同士のネットワークが確立できたのだが、さらに双方の研究者の交流を組織的に発展させることも目的とする。

2. 今年度の研究計画

新型コロナウイルスの拡大状況に慎重に対応しつつ、これまでの成果を整理し、また次の段階の協力関係を発展させるための協働・共同研究のシーズを共に探す。これまで通りの往来が可能になるならば、本館教員の2名を3回派遣する。

3. 今年度の研究経過

2022年2月、国立台湾歴史博物館から国際連携による展示「台湾の大航海時代」の共催について提案があった。展示共催の可能性を検討するため、両館によるオンライン会議を開催してテーマや内容について協議した(4月7日)。その協議を踏まえ、「東アジア海港都市特別企画国際ワークショップ」をオンラインで開催し、本館からは村木二郎教員が「14～16世紀の八重山と琉球」というテーマで発表をおこなった。その後、本館内で協議し、本館においては第3展示室の展示との関連を考慮し、鄭成功のイメージの変遷をテーマとして特集展示規模で開催する方向で調整をはかった。また3月に国立台湾歴史博物館を訪問し、国際共催展示に関する研究打ち合わせと国立台湾歴史博物館所蔵の関連資料を調査したほか、2021年にリニューアルした常設展示および開催中の特別展を見学した(3月9日)。また鄭成功関係史跡や資料の調査をおこなった(3月10日)。

4. 今年度の研究成果

新型コロナウイルス感染症の拡大により、台湾を訪問することができなくなっていたが、これまでの協力関係に基づいてオンラインによる打ち合わせやワークショップを国立台湾歴史博物館と共に開催し、3月には国立台湾歴史博物館の訪問が実現できた。そして共催展示についての詳細な意見交換や、関連資料の調査を実施することができ、歴博で開催する特集展示の検討が前進した。また、2021年にリニューアルした国立台湾歴史博物館の常設展示は、歴博で進行中の第5・第6展示室のリニューアルにとっても重要な資料や展示内容、展示手法を含むものであ

り、その点についても3月の訪問で情報交換をすることができた。4期における両館の研究交流を組織的に展開していくための基礎をつくることができた。

5. 事業組織（◎は事業主体者、○は副主体者）

○石 文 誠 国立台湾歴史博物館・研究組研究員

◎陳 怡 宏 国立台湾歴史博物館・研究組長

林 能成 関西大学・教授

内田 順子 本館研究部・教授

松田 陸彦 本館研究部・准教授

西谷 大 本館・館長

川村 清志 本館研究部・准教授

久留島 浩 本館研究部・特任教授

○小瀬戸恵美 本館研究部・准教授

◎樋浦 郷子 本館研究部・准教授

(2) 先史～中世における日韓葬送儀礼の比較研究Ⅲ 2022～2024年度 (事業主体者 高田 貫太)

1. 目的

学術交流協定締結機関である韓国国立中央博物館（以下、中央博）とは、2009年度～2012年度に第2期、2015年度～2018年度に第3期、2019年度～2021年度に第4期の共同研究を行い、総合展示第1室リニューアル事業に対する中央博側の協力を得ることができた。

引き続き、日韓の共同研究を継続する必要があることから、「先史～中世における日韓葬送儀礼の比較研究Ⅲ」をおこなうこととした。それに基づいて、展示協力についても一層推進していく。成果公開の場として、中央博が2019年12月に開催する企画展示『加耶の本質』の内容に基づいて、本館でも『加耶—東アジアを生きた、ある王国の歴史—』の開催が決定しており、その実現に向けて交流事業を推進する。

2. 今年度の研究計画

- ・展示協力と、共同研究会とそれに関する現地調査を1、2回程度行う。
- ・特に、開催が延期となっている国際企画展示『加耶—東アジアを生きた、ある王国の歴史—』の開催実現のために、展示協力を行う。

3. 今年度の研究経過

【展示協力】

- ・2022年10月4日～12月11日にかけて、国際企画展示『加耶—東アジアを生きた、ある王国の歴史—』を共催することができた。そのための展示・図録構成の協議、資料運搬・演習作業を共同で行った。
- ・中央博が広開土王碑文に関連する特別展を準備しており、そのための資料として、広開土王碑文原石拓本のデジタルデータの貸与を行った。

【共同研究】

- ・今年度は、国際企画展示『加耶—東アジアを生きた、ある王国の歴史—』の実現のために、展示構成、図録内容の検討が主となった。ただし、展示期間中に本館において共同研究会を催すことはかなわなかった。

4. 今年度の研究成果

何よりも、国際企画展示『加耶—東アジアを生きた、ある王国の歴史—』の開催を実現することができたことが特筆される。中央博と本館の国際交流事業と共同研究の大きな成果である。2023年5月には、事業主体者の高田が、国立金海博物館（韓国）において、その成果の一部を発表する予定である。また、中央博が準備中の広開土王碑文関連の特別展についても、その原石拓本の貸与という展示協力を行うことができた。展示開催後の共同研究の進め方について、今後時間をかけて協議していきたい。

5. 事業組織（◎は事業主体者、○は副主体者）

チェ ウンピ 国立中央博物館・学芸研究士

○ヤン ソンヒョク 国立中央博物館・学芸研究官

◎キム サンテ 国立中央博物館・考古歴史部長

藤尾慎一郎 本館研究部・教授
 三上 喜孝 本館研究部・教授
 ◎高田 貫太 本館研究部・教授

上野 祥史 本館研究部・准教授
 ○松木 武彦 本館研究部・教授

(3) スコットランドにおける日本歴史展示構築のための調査研究 2020～2022年度 (事業主体者 日高 薫)

1. 目的

グラスゴー博物館機構は、ケルヴィングローヴ美術博物館を中心に、グラスゴー周辺にある12の博物館や中央収蔵庫施設からなる組織である。日本政府が1878年に寄贈した1,150点の資料と、1901年の万国博覧会を機にそれ以降継続的に収集された日本資料約2,500点を所蔵する。

本事業においては、これらの日本資料（とくに1878年の日本側との交換寄贈資料）の概要調査をおこない、必要な情報を提供することにより、同館によって出版が計画されている館蔵日本コレクション目録の作成に向けて協力する。また、調査による資料情報の付与は、グラスゴー市郊外にある中央収蔵庫における収蔵展示に反映されるため、これにより現地での展示を通じた日本資料の活用を充実させることを目的とする。

2. 今年度の研究計画

- ① 基幹研究在外プロジェクト共同研究員三木美裕氏を含め本館から2名の研究者を派遣し、グラスゴーをはじめとするスコットランドにおける日本美術関連資料の調査をすすめる。
- ② ①の調査成果を、順次グラスゴー博物館機構における目録に反映させる。
- ③ グラスゴー博物館機構収蔵展示における日本文化理解と、日本研究活性化のための教育事業に協力する。
- ④ ダラム大学東洋美術館（英国）において進行中の展示・教育事業に①の調査成果を反映させる。

3. 今年度の研究経過

- ① ケルヴィングローヴ美術博物館における日本関係の特別展開催に向けて、展示資料候補の選定や、助成申請に関する助言等をおこない協力した。
- ② ダラム大学東洋美術館との連携により企画展示「Monogatari: the art of storytelling in Japanese woodblock prints」を開催し（2022年1月28日～5月15日）、図録を刊行した。
- ③ スコットランド美術史学会と共催で開催した「スコットランドと日本美術」をテーマとした研究大会の成果を、同学会のジャーナルとして刊行した。
- ④ ダラム大学が所蔵するスクワイヤー・コレクションを用いた特集展示の開催計画について協議した。

4. 今年度の研究成果

新型コロナウイルス感染拡大の影響で滞っていた活動を再開し、グラスゴー博物館機構やダラム大学、スコットランドナショナルトラスト等と連携しつつ、日本資料を活用した展示構築に協力した。パンデミックのため所期の予定通りに進めることができなかった部分もあるが、次年度以降も、北部イングランドおよびスコットランドにおける展示協力事業を継続していくための体制を整えることができた。

5. 事業組織（◎は事業主体者、○は副主体者）

◎マーティン・ベラミー グラスゴー博物館機構・研究部長
 ユビン・チャン グラスゴー博物館機構・学芸員
 澤田 和人 本館研究部・准教授 福岡万里子 本館研究部・准教授
 三木 美裕 本館・共同研究員 ○大久保純一 本館研究部・教授
 ◎日高 薫 本館研究部・教授

(4) 東アジア記録文化の源流と知的ネットワーク研究 2020～2022年度 (事業主体者 三上 喜孝)

1. 目的

本事業は本館と慶北大学校人文学術院との学術交流協定にもとづき、研究者の交流を図るものである。

慶北大学校人文学術院は、HK+事業「東アジア記録文化の源流と知的ネットワーク研究」として韓中日の木簡研究を推進している。本館との学術交流協定を通じて日本・韓国の古代木簡の共同研究を進め、東アジアにおける木簡文化、さらには漢字・儒教・律令など中国文化伝播の実態解明をめざす。

一方、本館でも、古代東アジアの文字文化に関する共同研究や、企画展示（「古代日本 文字のある風景」2001年、「文字がつなぐ 古代の日本列島と朝鮮半島」2014年）などをこれまで行ってきた。本館としては、慶北大学校人文学術院と積極的に学術交流を進めると同時に、この協定を足がかりに韓国や中国の他機関とも交流を進め、東アジア文字文化に関する研究拠点となることをめざす。

2. 今年度の研究計画

共同研究会とそれに関する現地調査を1, 2回程度行う。

3. 今年度の研究経過

以下の国際学会議に参加した。

(1) 慶北大学校 人文学術院 HK+事業団 第5回 国際学会議「木簡に反映された東アジアの法制と行政制度」

日 時：2023年1月29日～2月2日

場 所：オーシャンスイーツ済州ホテル（韓国・済州島）

主 催：慶北大学校 人文学術院

本事業組織の構成員である稲田奈津子（オンライン参加）、小倉慈司（現地参加）が、研究発表に対するコメントを行った。

(2) 2022年5月～6月にかけて、日本側の事業主体者である三上喜孝は、慶北大学校人文学術院が進めている『東アジア木簡辞典 日本木簡編』の韓国語訳監修を行った。日本の古代木簡にみえる約3400の用語について、韓国語の解説が適切かどうかを検討し、必要に応じて修正作業を行った。

4. 今年度の研究成果

2022年度は、引き続き新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、韓国での資料調査や研究会ができなかったが、オンラインにて研究会に参加し、活発な意見交換と学術交流を行うことができた。

5. 事業組織（◎は事業主体者、○は副主体者）

◎尹 在 碩 国立慶北大学校人文学術院・院長

橋本 繁 国立慶北大学校人文学術院・HK研究教授

李 東 柱 国立慶北大学校人文学術院・HK研究教授

金 跳 咏 国立慶北大学校人文学術院・HK研究教授

仁藤 敦史 本館研究部・教授

稲田奈津子 東京大学史料編纂所・准教授

○小倉 慈司 本館研究部・教授

◎三上 喜孝 本館研究部・教授

(5) 国立歴史民俗博物館と釜山大学校博物館における研究者交流と展示協力 2020～2022年度 (事業主体者 藤尾 慎一郎)

1. 目的

第3期の事業として実施した国際交流事業「国立歴史民俗博物館と釜山大学校博物館における研究者交流と展示

協力」(2017～2019年度)が終了した。総合展示第1室リニューアルが2019年3月に完成したことで、今後10年間、資料の借用が継続するため、定期的な資料チェックなどを目的とし、展示協力事業は継続する必要がある。さらに釜山大学校博物館から資料借用の要請があった際には、本館側も積極的に検討していく。釜山大学校博物館もリニューアルの話があるため、本館のリニューアルで培った経験と実績をもって協力可能である。

また第3期から始めた研究者交流は、朝鮮半島南部の初期鉄器時代を中心に出土する弥生系土器の調査や、朝鮮半島の新石器時代から三国時代にかけての出土人骨の調査など、新たな研究テーマでの展開を始めつつある。こうした研究を通じて改めて互いの研究内容への理解を深めることで、新しい共同研究テーマを探すことを目的とする。

2. 今年度の研究計画

- ①研究者交流 両機関は互いに研究者1名を10日ほど派遣し、研究交流を促進する。
- ②展示協力 本館総合展示第1室リニューアル事業において釜山大学校博物館から借用中の所蔵資料のメンテナンス。

3. 今年度の研究経過

新型コロナウイルスの影響で、韓国への渡航はビザを要していたが、11月からビザなし渡航が復活したので、2023年2月23、24日に藤尾代表と中村耕作准教授が釜山大学校博物館を訪問した。

4. 今年度の研究成果

2023年の釜山大学校博物館の訪問に際し、これまでの青銅器時代・三国時代に加え、新石器時代をテーマとした交流を、中村准教授をメインに据えて行うことで同意した。

一方、釜山大学側からの本館訪問は実現しなかった。

5. 事業組織 (◎は事業主体者、○は副主体者)

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|-----------|
| ○安 星 姫 | 釜山大学校博物館・学芸研究室長 | | |
| ◎金 斗 喆 | 釜山大学校博物館・館長 (11月まで) | | |
| ◎林 尚 鐸 | 釜山大学校博物館・館長 (11月から) | | |
| 箱崎 真隆 | 本館研究部・准教授 | 坂本 稔 | 本館研究部・教授 |
| 齋藤 努 | 本館研究部・教授 | 中村 耕作 | 本館研究部・准教授 |
| ○高田 貫太 | 本館研究部・教授 | ◎藤尾慎一郎 | 本館研究部・教授 |

(6) 国立文化財研究院との研究者交流事業 2021～2023年度 (事業主体者 山田 慎也)

1. 目的

本事業は本館と国立文化財研究院(韓国)との学術交流協定にもとづき、研究者の交流を図るものである。

協定書の別表に「協定書第2条に基づく具体的な交流協力」として「研究者の交流」を掲げ、「毎年両機関は互いに研究者1～4名程度を相手機関へ最大2週間派遣し、相手機関の研究課題から1課題を選定の上、当該研究課題の研究會等に参加させるものとする」と定めていることから、これを国際交流事業として位置づけて実施する。研究者の相互受入に係る調整は、本館国際企画室と国立文化財研究院研究企画課を窓口として行い、双方の機関が組織的な連携を図る。

2. 今年度の研究計画

互いに研究者1～4名程度を相手機関へ最大2週間派遣し、相手機関の研究課題から1課題を選定の上、当該研究課題の研究會等に参加させる。

3. 今年度の研究経過

新型コロナウイルスの影響で海外への渡航ができない状況にあり、事業を実施することができなかった。

4. 今年度の研究成果

新型コロナウイルスの影響により、派遣・受け入れともやむなく実施を見送った。

5. 事業組織（◎は事業主体者、○は副主体者）

- 咸 喆 熙 国立文化財研究院・学芸研究士
 崔 智 燕 国立文化財研究院・研究員
 ○林 鍾 恵 国立文化財研究院・係長
 ◎辛 美 貞 国立文化財研究院・課長
 村木 二郎 本館研究部・准教授
 上野 祥史 本館研究部・准教授
 ○齋藤 努 本館研究部・教授
 ◎山田 慎也 本館研究部・教授

[外国人招へい研究者]

氏名	所属	研究課題	期間
ジョ ユンジェ 趙 胤宰	高麗大学文化遺産融合部	古代日本における中国人移民と関連する考古学資料の調査	2022.5.1～ 2022.7.29
アンドリュー・ハッチ スン Andrew Hutcheson	セインズベリー日本藝術研究所	先史時代後期の日本とイギリスの取引方式の探求	2022.11.1～ 2022.12.12
キム キュウン 金 奎運	国立江原大学校	古墳時代における関東地方と韓半島の交流	2022.12.26～ 2023.2.23

[協定締結機関との交流]

招 聘			
氏名	所属	用務	期間
イ ジンミン チェ ギウン	韓国 国立中央博物館	企画展示「加耶展」にかかる資料搬入・展示作業	2022.9.20～ 2022.10.1
ユン ソンヨン ヤン ソンヒョク	韓国 国立中央博物館	企画展示「加耶展」にかかる内覧会参加	2022.10.2～ 2022.10.4
コ ヨンミン	韓国 国立中央博物館	企画展示（加耶展）にかかる資料状態点検及び梱包作業、資料輸送作業	2022.12.11～ 2022.12.18
コ ヨンミン	韓国 国立中央博物館	企画展示（加耶展）にかかる資料の開梱・状態点検・展示	2023.1.15～ 2023.1.21
パク ヘソン	韓国 国立中央博物館	総合展示第1室借用資料に係るコンディション調査	2023.2.20～ 2023.2.23
金 貞雲	韓国 国立慶北大学校人文学術院	共同研究経費「近代東アジアにおけるエゴ・ドキュメントの学際的・国際的研究	2023.2.25～ 2023.2.28
イ チャンヒ イ ヨン Chol	韓国 釜山大学校考古学科 大韓文化財研究院	基幹研究「先史から近代における日朝交流史像の再構築」にかかわる現地調査	2023.3.22～ 2023.3.25

派 遣 ※協定機関における用務を抜粋			
氏名	行先	用務	期間
高田 貫太	韓国 大韓文化財研究院	大韓文化財研究員主催【海南揖湖里古墳群 国家史跡指定文化財推進国際学術大会】における発表と古代の航路・寄港地に関する共同研究会の開催ならびに遺跡踏査	2022.6.7～ 2022.6.16
松木 武彦	韓国 国立慶北大学校人文学術院	SEAA 9(東アジア考古学会第9回大会)参加(招待講演)のため	2022.6.27～ 2022.7.3

氏名	行先	用務	期間
西谷 大 高田 貫太	韓国 国立中央博物館	国際企画展示の展示共催にかかる打ち合わせ	2022.9.6～ 2022.9.9
後藤 真	ベルギー ルーヴェン・カトリック大 学文学部	ルーヴェン大学の日本展示（ルーヴェン大学との協定事業）にかかる館蔵貸し出し資料の状況確認と打ち合わせ及び館蔵資料の展示作業	2022.10.12～ 2022.10.20
川邊 咲子	インドネシア バンドン工科大学	令和4年度機構若手研究者海外派遣プログラム「地域との協働による民具資料のデジタルアーカイブ化」に係る調査研究	2022.11.2～ 2022.12.1
橋本 雄太	英国 ケンブリッジ大学アジア中 東学部	シンポジウム「The Digital Turn in Early Modern Japanese Studies」の運営および研究ミーティング	2022.11.30～ 2022.12.7
高田 貫太	韓国 大韓文化財研究院	科研費による調査・研究	2022.12.1～ 2022.12.4
後藤 真	ベルギー ルーヴェン・カトリック大 学文学部	ルーヴェン大学の日本展示（ルーヴェン大学との協定事業）へ貸し出した館蔵史料返却の状況確認と撤収作業及び協定に基づくDH関係のワークショップ実施	2023.1.11～ 2023.1.20
小倉 慈司	韓国 国立慶北大学校人文学術院	慶北大学校 人文術院 HK+事業団 第5回 國制學術大会への参加	2023.1.29～ 2023.2.2
藤尾慎一郎 中村 耕作	韓国 釜山大学校博物館	講演「渡来系弥生人の源流」と今後の活動方針打ち合わせ・博物館資料見学	2023.2.23～ 2023.2.25
西谷 大 山田 慎也 内田 順子 大久保純一 久留島 浩 斉藤 智喜	台湾 国立台湾歴史博物館	台湾歴史博物館との展示打ち合わせ、鄭成功関連史跡の巡検、博物館見学	2023.3.7～ 2023.3.12
日高 薫 澤田 和人 工藤 航平 福岡万里子	米国 スミソニアン研究機構	在米日本関係資料調査および打ち合わせ	2023.3.20～ 2023.3.26

[海外派遣] 国際企画室 企画・渉外係

氏名	行先	用務	期間
共同研究			
松田 睦彦 久留島 浩 高田 貫太	韓国	基幹研究「先史から近代における日朝交流史像の再構築」にかかわる現地調査	2022.11.25～ 2022.11.28
樋浦 郷子 田中 祐介	韓国	共同研究「近代東アジアにおけるエゴ・ドキュメントの学際的・国際的研究」による韓国の日記史料調査のため	2023.2.21～ 2023.2.24
科学研究費補助金			
後藤 真	ポーランド	国際歴史学会議第23回ポズナン大会（the X X III ICHS Poznan 2020/2022）での研究発表及び情報収集	2022.8.21～ 2022.8.27
亀田 堯宙	ポーランド	国際歴史学会議第23回ポズナン大会（the X X III ICHS Poznan 2020/2022）での研究発表及び情報収集	2022.8.21～ 2022.8.28

氏名	行先	用務	期間
川邊 咲子	ポーランド	国際歴史学会議第23回ポズナン大会 (the X X III ICHS Poznan 2020/2022) での研究発表及び情報収集	2022.8.21～ 2022.8.28
松田 睦彦	韓国	韓日海女フォーラムへの参加	2022.8.24～ 2022.8.28
日高 薫	ドイツ	科研費による研究に関する資料調査	2022.9.7～ 2022.9.15
坂本 稔	スイス連邦	第24回放射性炭素国際会議・第10回炭素14と考古学国際会議における研究成果の報告	2022.9.12～ 2022.9.18
松木 武彦	グアテマラ共和国	新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学—文明創出メカニズムの解明」に関わる海外拠点形成を目的とした視察・情報収集および会議（海外研修承認）	2022.9.17～ 2022.9.25
日高 薫	英国, フランス	科研費による研究に関する資料調査	2022.11.21～ 2022.12.2
松田 睦彦	韓国	科研基盤B「モノ・人・権力の現代民俗学：日中韓の比較に基づく批判的〈民具〉研究の構築」にかかわる調査	2023.2.22～ 2023.2.25
松木 武彦	米国	新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」2023年国際会議 Trekking Shores, Crossing Water Gaps, and Beyondへの参加	2023.3.1～ 2023.3.6
石井 匠	米国	Integrative Human Historical Science of "Out of Eurasia" Hawaii Conference 2023, Trekking Shores, Crossing Water Gaps, and Beyond: Maritime Aspects in the Dynamics of "Out of Eurasia" Civilizations 及び Excursion参加, ハワイの考古・民族・芸術資料調査のため	2023.3.1～ 2023.3.6
佐々木憲一	米国	先史時代ミシシッピ時代のマウンド遺跡の踏査, 自然史博物館見学	2023.3.12～ 2023.3.18
亀田 堯宙	米国	Association for Asian Studies 2023 Annual Conference & Expoでのブース出展及び情報収集	2023.3.16～ 2023.3.21
機構基幹研究プロジェクト・共創先導プロジェクト			
工藤 航平	ドイツ	「日本関連在外資料調査研究」プロジェクトにおける資料調査	2022.9.7～ 2022.9.15
後藤 真	ポルトガル	第32回日本資料専門家欧州協会年次大会 (The 32nd EAJRS Conference) 'Documentary and visual resources on Japan in the wider Asian context'での研究発表及び情報収集	2022.9.12～ 2022.9.20
川邊 咲子			
橋本 雄太			
亀田 堯宙	米国	PNC 2022 Annual Conference and Joint Meetingsでの研究発表及び情報収集	2022.9.15～ 2022.9.20
日高 薫	フランス	基幹研究プロジェクト経費による研究に関する資料調査（在仏日本関係資料調査および打ち合わせ）	2023.2.17～ 2023.2.25
橋本 雄太	米国	ハーバード大学主催の国際DHシンポジウムTools of the Tradeの参加と研究発表 Association for Asian Studies 2023 Annual Conference & Expoでのブース出展及び情報収集	2023.3.13～ 2023.3.20
川邊 咲子	米国	Association for Asian Studies 2023 Annual Conference & Expoでのブース出展及び情報収集	2023.3.15～ 2023.3.21
後藤 真			
その他の調査・研究・学会・シンポジウム等			
河合佐知子	米国	南カリフォルニア大学における講義・講演および南カリフォルニアの博物館・美術館訪問	2022.8.31～ 2022.9.12
亀田 堯宙	ニュージーランド	Twenty-third International Conference on Knowledge, Culture, and Change in Organizationsでの研究発表及び情報収集 Auckland Central City LibraryおよびAuckland War Memorial Museumでの資料調査	2023.1.17～ 2023.1.23

氏 名	行 先	用 務	期 間
他の研究機関の依頼による海外調査・研究等			
高科 真紀	バチカン市国, イタリア	バチカン使徒文書館とプロジェクト打ち合わせ, 国際文書館評議会年次大会参加	2022.9.20～ 2022.9.25
高科 真紀	台湾	大溪木藝生態博物館における市民参画型の文化財 の保存に関する調査	2023.1.13～ 2023.1.16